

● 県を退職し、日本初のサイエンスパーク社長へ 九一年七月

五選目の知事選に圧勝した直後の五月、「知事がお呼びです」との連絡で知事室に行く。「五期目は長洲県政の総仕上げになる。一番気になるのは《神奈川サイエンスパーク》だ。四年になるが期待の成果が出ていない。名誉職社長でなく、実務もできる常勤社長が必要だ。久保君にお願いしたいのだが・・」との話だった。一瞬戸惑ったが「長洲県政の最重要事業で、コンセプト段階からかわってきたので逃げる気はありませんが、会社経営の経験はゼロですから、＜命令＞なら受けますが、＜考えてくれ＞ならお断りします」と答えた。

知事はすかさず「命令です」と言われた。九一年六月二日、私は副知事を退任し、三週間休養の後二十三日、株主総会の議を経て日本初の「かながわサイエンスパーク」の運営会社（株）ケイエスピー（県、川崎、国で十五億円、民間企業三十億円出資の第三セクター）代表取締役社長に就任。「研究開発型企業が生まれ、育ち、集う」イノベーションセンターの運営という未知への旅に出た。

日本初のサイエンスパーク立ち上げん 蒼天を衝くビル群に誓う

アイデアから建設へ幾夜重ねしかこの事業 臉に浮かぶ関係者らの顔

限りなき頭脳資源の開発に 国運かかると岡崎会長

（全日空会長だった岡崎嘉平太さんが初代社長に就任された）

神奈川をアジアの「頭脳センター」へ 長洲知事また決意を語る